

## 市民の皆さんへ



平成 28 年度の日本経済は、海外景気の下振れにより、景気が下押しされるリスクに留意する必要があるものの、各種政策の効果による雇用・所得環境の改善傾向が続き、緩やかに景気が回復していくものと見込まれています。

このような中で、矢板市の財政は、平成 26 年度決算において、歳入の根幹である市税収入は 7 年ぶりに増加に転じましたが、ピーク時の平成 19 年度と比較して約 12 億円減少するなど、自主財源を確保することが難しい状況が続いています。一方、歳出においては、福祉関係の扶助費、介護保険や国民健康保険への繰出金が増加を続けている状況であるため、柔軟性に欠いた財政運営になっています。

しかしながら、平成 28 年度は、市政運営の指針であ

る「第 2 次 21 世紀矢板市総合計画」の「後期基本計画」の初年度であり、「矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略」も本格的にスタートする年になります。

財政環境の先行きを見通すことが難しい中であっても、総合計画の 5 つの重点計画、総合戦略の 4 つの基本目標に取り組みながら、新たな行政課題についても施策の優先順位を見極めつつ、的確に対応していく必要があります。そのため、歳入・歳出全般にわたり徹底した見直しを行い、必要な財源を確保しながら財源の重点的・効率的な配分に徹する方針で予算の編成を行ってまいりました。

この予算特集号は、市の財政状況や予算がどのように使われているのかを、総合計画の分野別計画の 7 項目に分け、わかりやすく表現することを心掛け作成しました。市の財政状況や事業をお知らせすることは、市民と行政が協働したまちづくりを進めていくために、とても大切なことであると考えています。

市民の皆さんが、市の財政や事業を身近に感じ、少しでも関心を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

矢板市長 遠藤 忠

## 矢板市の今年度予算

# 126 億 2,000 万円（一般会計）

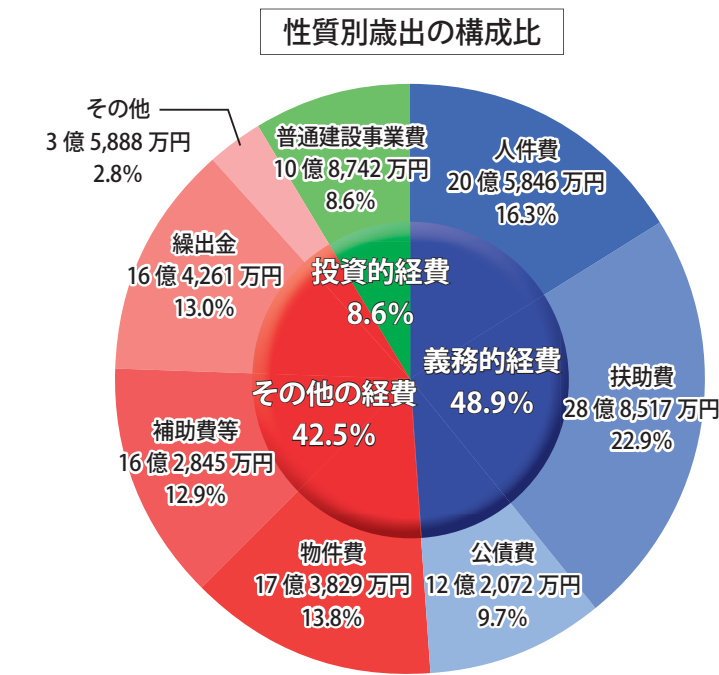
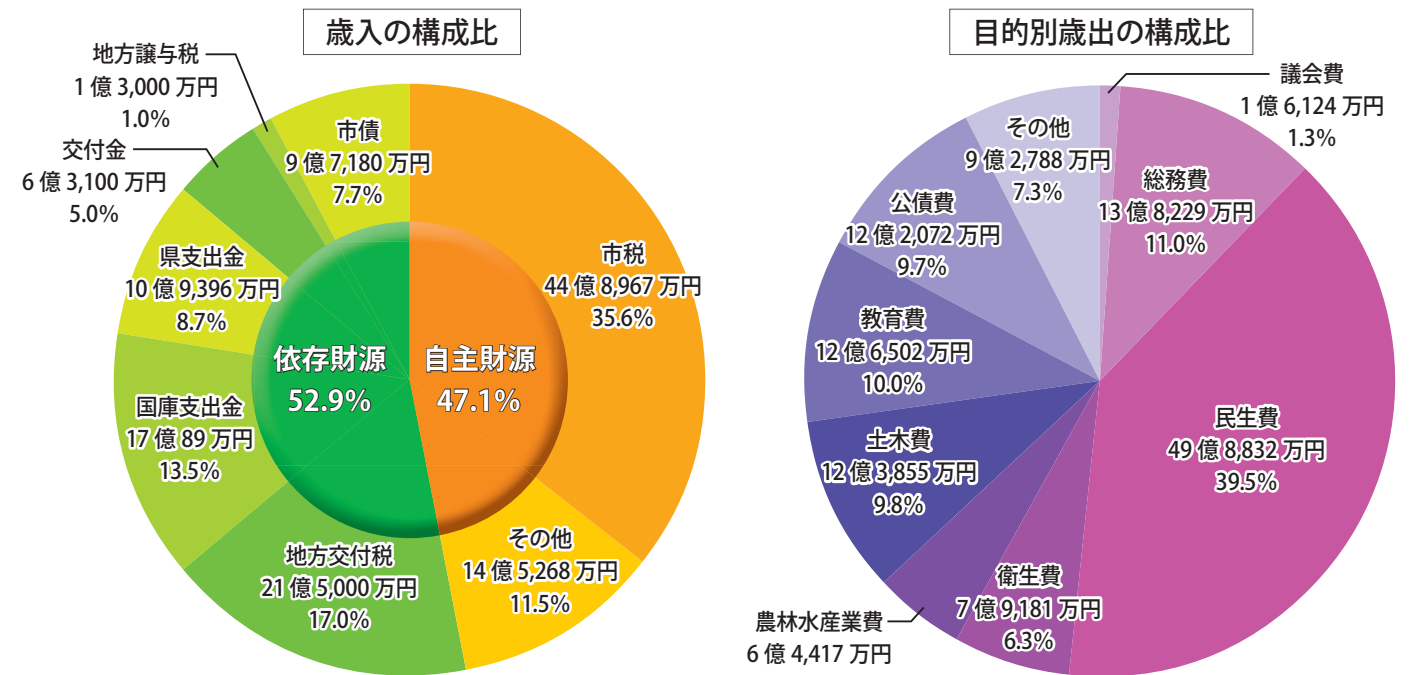
### 会計別予算額

区分	平成 28 年度 A	平成 27 年度 B	増減額 A-B	伸び率 %
一般会計	126 億 2,000 万円	126 億 300 万円	1,700 万円	0.1%
特別会計				
介護保険	27 億 9,520 万円	24 億 7,480 万円	3 億 2,040 万円	12.9%
国民健康保険	45 億 1,980 万円	44 億 8,270 万円	3,710 万円	0.8%
後期高齢者医療	3 億 3,320 万円	3 億 3,620 万円	△ 300 万円	△ 0.9%
農業集落排水事業	5,680 万円	5,500 万円	180 万円	3.3%
公共下水道事業	8 億 5,160 万円	8 億 7,580 万円	△ 2,420 万円	△ 2.8%
コロナ矢板排水処理事業	1,730 万円	1,760 万円	△ 30 万円	△ 1.7%
木幡宅地造成事業	1 億 9,770 万円	1 億 9,320 万円	450 万円	2.3%
小計	87 億 7,160 万円	84 億 3,530 万円	3 億 3,630 万円	4.0%
水道事業会計	11 億 6,770 万円	11 億 3,920 万円	2,850 万円	2.5%
合計	225 億 5,930 万円	221 億 7,750 万円	3 億 8,180 万円	1.7%

一般会計…市の基本となる会計

特別会計…特定の歳入を特定の事業に充て、一般会計と区別して経理する会計

## 予算の各構成比



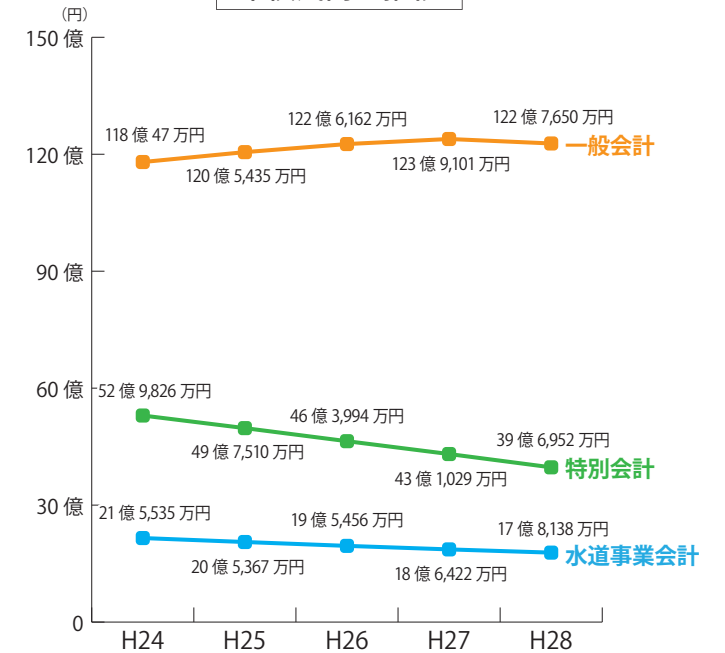
### 【歳入】

市税のうち、固定資産税は新築家屋や償却資産の増加が見込まれますが、個人市民税及び法人市民税は人口減少や一部業種の不振などの影響により、減少する見込みです。

市税は、平成 19 年度をピークに減少を続け、ピーク時と比較すると 11 億 6,000 万円も減少しているため、一般財源の確保が難しい状況が続いています。

※用語解説は、21 ページをご覧ください。

### 市債残高の推移



### 【歳出】

民生費は、障害者自立支援事業などの扶助費、介護保険や国民健康保険特別会計への繰出金の増加などにより、4 億 4,700 万円増加し、予算総額の約 4 割を占めている状況です。

投資的経費のうち補助事業費は、片岡地区市街地整備事業や造成宅地滑動崩落緊急対策事業などが減少したことにより、2 億 7,800 万円の減となりましたが、単独事業費は、城の湯温泉センター施設改修事業の増加により、2 億 4,300 万円の増となっています。